

# 校長室だより

ふるさと大路を愛し 夢を求めて挑戦し続ける 大路っ子プライドの育成  
～ふるさと大路の輝く太陽になろう～

丹波市立大路小学校

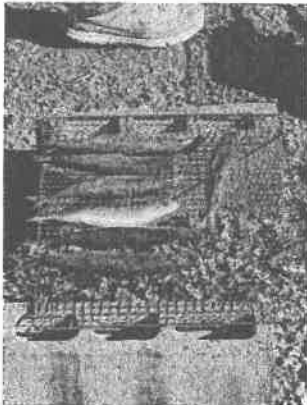
校長通信



令和5年12月号

## 師走になって思うこと 2023

毎年、この時期になると年中行事が目白押しです。その一つとして、私の地域では、「森の塔」と呼ばれる行事が行われます。



お守りさんと呼ばれるお堂に村人が集まって、今年1年の無病息災を感謝します。少し変わっているのは、「おしろい餅」という米粉を練って作ったお餅を、椿の葉に包んで焼きます。また、イワシも焼いて食べます。どうしてこの「おしろい餅」とイワシを食べるのかは、不確かなところはあるようですが、今年の農業や漁業の収穫を祝うとともに、来年の豊作を祈るものだとされています。



他にも公民館やお寺の大掃除などもこの季節の行事として、今も継続して行われています。皆さんの地域でも様々な伝統的な行事が行われていることと思います。持続可能な社会の確立を目指して知恵を出し合いたいと思います。

さて、先日、教育委員会や学校管理職を対象とした研修会が開催されました。その中で、講師さんの言われた「五不の体験不足が課題」が気になったので、お伝えしたいと思います。五不とは、「不」の付く五つの言葉です。「不便」「不安」「不満」「不協議」「不足」の五つです（人によったら違う言葉になることもあるようです）。これらの言葉は、企業が商品開発をするときにお客さんがそう感じないように、その解消を目指すものです。確かに私たちの身の回りには、「便利」「安心」なものが多いような気がします。また、それすら当たり前のような感覚になっています。では、日常の「便利」や「安心」が当たり前になっていることが、なぜ課題になるのでしょうか。私事ですが、家の改築をしてから掃除用ロボット「ル〇バ」を買いました。今では、夜中の間に掃除してくれるのが当たり前になっており、自分ですることが少なくなりました。ですの家族の誰かが片付けや掃除をしてくれていても、きれいになっていることが当たり前で、掃除をしてくれた人に「ありがとう」ということが少なくなったように思います。ロボットや誰かにしてもらおうことが当たり前になっていると、ちょっとした身の回りの変化に気づく感覚が鈍ってくるのかもしれない。最近学校でも感じているのは、子どもたちにとって便利で安全な生活が、これから成長していく上で妨げになっているのではないかということです。「不便」を感じてこそ、その解消を目指して工夫し、試行錯誤することによって知恵がつくのだと思います。学校では、子ども同士のトラブルを自分たちで解決する力をつけたいと考えています。しかし、昨今、大きないじめにならないよう、トラブルの仲裁に教師（大人）が入ることが多くなりました。子どもたちの成長を望むのであれば、見守ることの方が大切なのではと振り返る師走になりました。

文責 畑中 啓太